

教育研究部

部長：真鍋 篤行 副部長：大西 康夫

(1) 今年度の目標

- ① 教科・TPや学校行事でより教育効果が得られるように、図書館利用の促進を図る。
- ② 情報・視聴覚機器を充実させる。
- ③ 異文化への興味・関心を高めたり、斯文祭等を利用して環境に対する意識の高揚を図る。
- ④ 学校評価活動の改善について、実施内容や方法、学校評価書を本年度の実態に合わせ、教員の業務改善により効果が見られるよう工夫する。
- ⑤ 学校活動の外部公開の一部として、中学生およびその関係者向けの活動を行い、本校の教育活動について知りたい情報を提供する。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 『図書館だより』を発行すると共に、館内のレイアウトを工夫する。
- ② 読書週間を活用し、読書推進を図る。
- ③ 教員の要望を聞き、購入物品の調整をする。
- ④ 県内在住の外国人やALTを講師に迎えての『国際交流会』や、『環境ホームルーム』を実施する。
- ⑤ 学校評価のための基礎資料収集を次のとおり行う。
 - ア 公開授業（4月、11月）のアンケート集計と分析を適切に行う。
 - イ 生徒による授業評価、教員による自己評価を含め項目などを精選して行い、学校評価活動の取りまとめを適切に行う。
- ⑥ オープンスクール（8月）の企画・運営を適切に行うとともに、昨年度みられた問題点の改善を試みる。
- ⑦ ホームページの充実と適時的な更新を行う。

(3) 成 果

A 学校評価

- ① ア 公開授業の来校者数とアンケート回収率は以下の通りである。
 - 第1回(4/24～25・PTA総会) 来校者総数185名(回収率18.4%)
 - 第2回(11/12～13・1年進路選択説明会) 来校者総数102名(回収率11.8%)新校舎完成ということもあり来場者が前年より多かったが、来校者名簿に記入していない人が多い。アンケート回収率が低かったが、授業のあり方等について貴重な指摘や激励の言葉をいただけて、参考になった。
- ① イ 「生徒による授業評価」・「保護者・生徒のアンケート結果」・「教員の自己評価」
 - 「生徒による授業評価」は各教科の授業の理解に関する生徒の実態を把握し、授業改善に活かす手段として有意義であった。特に文章による評価が参考になった。
 - 「教員の自己評価」と「保護者・生徒のアンケート結果」は、保護者や生徒の評価と教員・学校側の評価との差異を確認し、その差異が生じている理由や対応策を考える上で有意義であった。
- ② オープンスクール
昨年度と同様に、夏休みに実施した。今年の参加者は、中学生398名、保護者75名、引率中学教員18名という多数の参加があった。内容については、概ね好評であり、「在校生と中学生の懇談会」は高評価であった。
- ③ ホームページ
ホームページ内のファイルを整理し、内容更新も適切に実施できた。

B 図書館教育・読書推進・メディア教育・教育研究

- ① 図書館が本館に移転し生徒の利便性が増し、貸し出し冊数が増えた。
- ② 蔵書システムの入力作業で、作業人員の増加により図書の入力数を増やすことができた。
- ③ 視聴覚の機器がほぼ揃い、ほこりやチョークよけのカバーを設置し、利用者が利用しやすい環境を整えた。
- ④ 視聴覚予約表の掲示などで、円滑に視聴覚機器の利用ができるようにした。
- ⑤ 教員の指導力向上のため、学期に1回、教員相互の授業参観を実施した。

(4) 課題と次年度以降の改善策

A 学校評価

- ①・アについて…アンケートの回収率が低くなったので宣伝活動を増やす等の対応策を考えたい。
- ①・イについて…「生徒による授業評価」・「教員の自己評価」については、これまでも改善してきたが、さらにアンケート項目の改善や精選を促し、第三者が見ても分かりやすい内容にしたい。

保護者等の学校関係者へのアンケート内容も回答しやすいものに工夫していく。

「教員の自己評価」と「保護者・生徒のアンケート結果」「教員の自己評価」を早目に実施し、その結果を学校の自己評価に生かしていく。

② オープンスクールについて

今年度より新校舎を使つての実施であったが、施設見学、授業見学など運営方法の再検討が必要である。雨天時の対応も十分考えておく必要がある。

③ ホームページについて

適切に運営されている。修学旅行記の更新がタイムリーで、保護者からの反響が大きかった。ネットワーク委員の生徒で作るページ（主に行事）の更新がやや遅れぎみである。更新用ソフトが生徒の自宅にない場合がほとんどで、どうしても作成に時間がかかるため、今後検討の必要がある。

B 図書館教育・読書推進・メディア教育・教育研究

- ① 蔵書システムの図書の入力数を増やすことができたが、継続して作業を円滑に実施する方策を検討する。
- ② 教材を録画するシステムの設置を検討したい。
- ③ 2体の放送室の入り口のドアが開閉しにくくが出られなくなる恐れもあり安全対策の方策を講じる必要がある。
- ④ 国際交流は実施内容を検討するとともに、講師を招聘する場合の予算措置の検討も必要。環境教育はHRでの実施が時間的に難しく、すでに理科等の各科目を通じて実施していることから、次年度からは各教科の領域で推進していきたい。
- ⑤ 教員の指導力の向上を目標に設定して、その実現のための大学教授による指導や他校の中高等学校教員の参観などの方法を検討する。
- ⑥ 大学入学希望者学力評価テストの実施を見据えて、生徒の検定による資格取得や各教科のオリンピック等への参加を促す方法を検討する。